

研究成果要旨

研究テーマ 赤十字の国際活動を行う看護師育成—国際活動経験者の国際ラダーの評価と活用の実態—
研究組織 研究(代表)者: 内木 美恵 (日本赤十字看護大学) 共同研究者: 名古屋第二赤十字病院・副院長兼看護部長 伊藤 明子 熊本赤十字病院・看護部長 東 智子 日本赤十字社医療センター・看護師長 ソルステインソン みさえ
キーワード 国際看護、看護師育成、赤十字

研究報告

(1) 研究の背景・目的

日本赤十字社は 1961 年より発展途上国や災害多発地域に看護師等を派遣し、2016 年には国際派遣登録要員に全職種 494 人登録しており、看護師は 173 人で 35%を占めている(日本赤十字社, 2016)。派遣が拡大する中で、国際活動を行う看護師の育成については「赤十字の国際活動における看護職の実践能力向上のためのキャリア開発ラダー(以後国際ラダーと呼ぶ)」によって、日本赤十字社では標準化された。これは、2006 年の「看護実践能力向上のためのキャリア開発ラダー」に続いて 2012 年より始まりった。国際ラダーの活用が開始され 5 年が経過した。

今回は赤十字の国際活動に派遣され、実践した経験のある看護師がどのように国際ラダーを活用し、看護師の国際活動を行う上で何を課題と考えているかを明らかにする。

(2) 研究方法

半構造化面接による質的記述的研究である。データ収集期間は 2018 年 7 月 1 日～2019 年 12 月 31 日。対象者は日本赤十字社の病院に勤務しており、国際ラダーのレベル 1～4 のいずれかを取得し、日本赤十字社の国際活動に参加した看護師。倫理的配慮として日本赤十字看護大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号 2018-034)を得て実施した。

(3) 研究結果

研究に参加した看護師 9 人の看護師経験年数は 6～32 年であった。派遣回数は、1～3 回 5 人、4～6 回 3 人、7 回以上 1 人であった。国際ラダーの活用に関しては、国際活動に関するナラティブの記述により＜自己を振り返り課題を明確化する＞こと、赤十字の理念や人道法などの＜国際活動の理念を学ぶ＞機会であった。また、国際ラダーを取得するために指標に沿って能力を確認することにより＜国際活動に関する学びの方向性を知る＞ことができていた。また、派遣現場では、現場で学んでいること、そこから感じた自己の課題として＜事業企画とモニタリング＞＜リーダーシップとチームワーク＞＜現地看護スタッフ教育＞＜コミュニケーション＞＜マネジメント＞＜地域での公衆衛生＞＜事業費用の管理＞があげられた。

(4) 考察

国際ラダーに関しては、自己の実践能力の指標を充たしているかという確認だけでなく、学びの指標になっていた。また国際活動のナラティブでは自己の課題を明らかにしていた。赤十字の理念や人道法などは病院勤務では触れる機会が少ないため、国際ラダーにより学びを深めていると推察される。派遣現場では、地域公衆衛生、事業企画とモニタリング、事業費用の管理等を、病院勤務ではほとんど関わることがない。国際ラダーおよび国際活動を目指す看護師の学習視点として、今後も検討する必要がある。

(5) 謝辞

「学校法人日本赤十字学園赤十字と看護・介護に関する研究助成(平成 30 年度・平成 31 年度)」により助成を受けて実施した。

(6) 引用文献?

日本赤十字社(2016). 赤十字の国際活動 2016. 日本赤十字社, 39-37.